AEROSPACE SYMPOSIUM 2013

航空宇宙シンポジウム2013 開催結果報告書

2013年10月9日(水)～10月11日(金)

主催：航空宇宙シンポジウム実行委員会［構成団体：愛知県、名古屋市、(一社)中部航空宇宙産業技術センター、(公財)あいち産業振興機構、(公財)名古屋産業振興公社］
共催：名古屋商工会議所、(一社)中部経済連合会　　後援：(独)宇宙航空研究開発機構、(一社)日本航空宇宙工業会、国立大学法人 名古屋大学、国立大学法人 名古屋工業大学

目次 Contents

01 目次
01 事業の概要
02 来場者の概要
03 講演会
05 講演会アンケート
07 商談・相談会
08 展示会
09 展示アンケート
10 写真
12 出展ブース風景（抜粋）
13 実行委員会規約
14 実行委員会名簿

事業の概要 Outline

01 **事業名**	航空宇宙シンポジウム2013
02 **開催日**	平成25年10月9日（水）～10月11日（金）
03 **開催場所**	名古屋市国際展示場（ポートメッセなごや）（名古屋市港区金城ふ頭2-2）
04 **主　催**	航空宇宙シンポジウム実行委員会 構成団体：愛知県、名古屋市、（一社）中部航空宇宙産業技術センター、（公財）あいち産業振興機構、（公財）名古屋産業振興公社
05 **共　催**	名古屋商工会議所、（一社）中部経済連合会
06 **後　援**	（独）宇宙航空研究開発機構、（一社）日本航空宇宙工業会、国立大学法人名古屋大学、国立大学法人名古屋工業大学
07 **同時開催**	第3回次世代ものづくり基盤技術産業展 "TECH Biz EXPO 2013"（主催：名古屋国際見本市委員会）
08 **事業目的**	航空宇宙産業は広範な分野の産業の高度化を先導する重要な産業であり、今後の発展が強く期待されている。特に近年の我が国の航空宇宙産業は、愛知・名古屋地域を中心に、国産初のジェット旅客機の開発から製造段階への移行や、国際共同プロジェクトによるボーイング社の次世代旅客機787型機の量産、H-ⅡAロケット生産が進められるなど、大きな変化の中にある。 また、当地域は航空宇宙産業界の中心地域として、平成24年度は"2012年国際航空宇宙展"、平成25年6月には"第29回宇宙技術および科学の国際シンポジウム"が開催されるとともに、国の国際戦略総合特区の指定を受けた「アジアNo.1航空宇宙産業クラスター形成特区」のプロジェクトを推進し、航空宇宙産業の高度化と集積拡大を図っている。 本シンポジウムは、航空宇宙産業に関する国内外の最新動向及び航空宇宙の最先端技術に関する情報交換・技術交流を行うとともに、多分野にわたる企業を対象として、航空宇宙分野での新たなビジネスチャンスの創出を推進することにより、航空宇宙産業及び関連技術の発展に寄与することを目的として開催した。
09 **参加者**	●航空宇宙産業に従事する主要4重工及び中堅・中小企業者 ●航空宇宙産業に関心のある他産業の中堅・中小企業者 ●航空宇宙関連団体及び大学等教育機関 ●その他一般来場者
10 **入場料**	無料
11 **入場者数**	TECH Biz EXPO 2013 19,885人（10月9日（水）5,682人／10月10日（木）7,059人／10月11日（金）7,144人）

12 事業実施による結果報告

【総評】今回のシンポジウムでは、「次世代ものづくり基盤技術産業展 TECH Biz EXPO 2013」との同時開催による相乗効果を狙い、同一会場（ポートメッセなごや）内において展示会、講演会及び商談・相談会を実施した。開催期間中の来場者数（当シンポジウム及びTECH Biz EXPOの合算）は19,885名（昨年度のTECH Biz EXPOより899名増加）であり、集客面で効果があったと考えられる。また、航空宇宙産業を支える分野として、素材、設計・開発、製造、研究開発、人材育成等多岐にわたる企業・団体のブース出展や、企業がビジネスに活かせる講演を実施することにより、「アジアNo.1航空宇宙産業クラスター形成特区」を推進する当地域の航空宇宙産業の技術力や将来性について、充分なPRを図ることができたと考えられる。

【展示会】出展企業に対するアンケート結果では、76%が出展について「成果が出た」と回答している。TECH Biz EXPOとの同時開催であったことや、出展企業が、素材、設計・開発、製造、研究開発、人材育成等の航空宇宙産業を支える多分野にわたっていたことから、今後の取引に結びつきそうな企業が100社以上あるとともに、「異業種との交流が促進できた」という意見もあり、ビジネスマッチング面での効果があったと考えられる。また、当シンポジウム出展企業の60%がTECH Biz EXPOのブースも訪れ、当シンポジウムエリアとTECH Biz EXPOエリアそれぞれで企業間の相互交流が図られたものと考えられ、企業展示の面でも同時開催の相乗効果が高かったことが伺える。

【講演会】聴講者数は4本の講演を通じて延べ229名と、航空宇宙関連企業のみならず広く一般からも同産業に対する関心の高さが伺える。講演内容については、航空宇宙産業における最新の動向やトレンドを知ることができ参考になったといった意見があった。さらに今後の同産業の方向性・構想等や、専門的な技術に関するより詳しい内容を聞きたいとの声も聞かれたため、今後のセミナー・講演等開催の際の参考としていきたい。

【商談・相談会】アンケート結果では、発注企業の71%、受注企業の55%が商談・相談会への参加に満足していると回答している。発注企業からは、数年前に比べ受注企業のレベルが上がってきているとの感想もあり、JISQ9100認証取得など受注企業の航空機産業への参入意欲が面談件数の増加（平成25年度55件、平成24年度42件）に繋がっていると考えられる。

13 今後の活動予定

当地域における航空宇宙関連産業の普及啓発を主な目的として平成19年度から継続開催されてきた当シンポジウムは、国内航空宇宙産業の中心地である当地域における航空宇宙分野に特化した唯一の展示会としての役割を担う重要な事業であるが、出展企業へのアンケートにおいても、販路拡大、海外展開を見据えたより具体的な支援として「商談の機会」や「国際ビジネスへの参入に向けたアピールの場」の設定等の要望意見もあったところであり、今後は、海外も含めたビジネスマッチング（商談会出展支援等）に主眼を置いた事業展開を検討していく。

来場者の概要 Visitors

航空宇宙シンポジウム2013

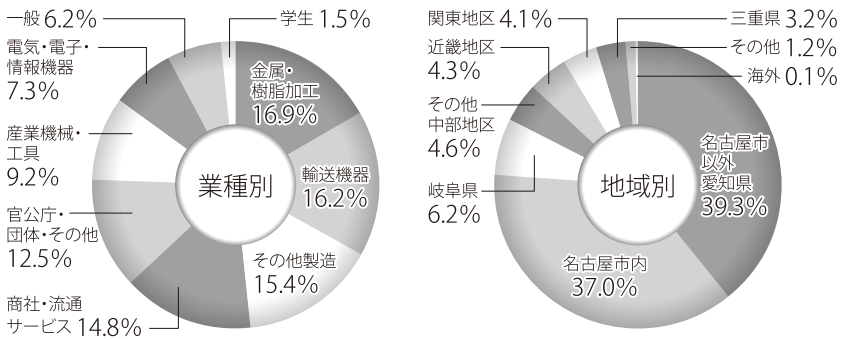
開 催 日　平成25年10月9日（水）～10月11日（金）

開催場所　名古屋市国際展示場（ポートメッセなごや）（名古屋市港区金城ふ頭2-2）

来場者数　総来場者数 19,885人（10月9日（水）5,682人／10月10日（木）7,059人／10月11日（金）7,144人）

来場者分類

中部地区を代表する自動車・部品メーカー及び航空機部材・部品メーカーの技術・研究職の方々が多数来場。



（出典：第3回次世代ものづくり基盤技術産業展 "TECH Biz EXPO 2013" 名古屋国際見本市委員会事務局）

講演会 Lecture meeting

平成25年10月9日（水）　総聴講者数229名

講　演　航空エンジンにおける材料及び技術開発の動向

講　師　**（株）IHI 航空宇宙事業本部 技術開発センター エンジン技術部長　今成 邦之　氏**

講演概要　日本における民間航空エンジン事業のあゆみ、航空エンジン事業の特徴についてまず概観した上で、過去20年間と今後20年間の航空機市場動向を検討した。現在、原油高によるユーザーの燃費低減ニーズが強く、燃料消費についてサイクル論的視点から分析することで、熱効率と推進効率の両面における技術的対応の必要性が見えてくる。推進効率向上にはバイパス比の向上が効果的であるが、使用材料が従来と同じ場合は重量増となり、その効果は限定的となる。一方、炭素繊維強化複合材やセラミックス基複合材等の軽量材料を適用することにより、重量増を抑えて推進効率向上を実現できる。また、熱効率向上には高圧高温化が有効であり、特に高温化の実現が技術的に難しいこともあって律速プロセスとなっている。高温化には耐熱材料と冷却法の両面での研究がおこなわれており、耐熱材料については従来のニッケル基超合金が限界に達しつつあるため、今後セラミックス基複合材にパラダイムシフトしていく可能性がある。

講　演　航空機部品製造の将来

講　師　**（株）和田製作所 代表取締役　和田 典之　氏**

講演概要　航空機部品は材質や用途、加工方法等によって分類される。また、主に民間機分野から見た航空機産業は今後の需要拡大が見込まれ、機体製造にかかる素材、制御システム等の面での技術革新や国産ジェット旅客機MRJの開発も進んでいるところである。航空機の機体構造部品は過去の例では30年以上同じものを造り続け、ボーイング737で45年、767が30年、777は17年、若干の変更はあるもののほぼ同じ材料、同じ方法で生産を続けている。そのため、航空機の部品製造、組立の双方において開発段階では最先端であった技術や工程が生産を続けている間に時代遅れになり、コストダウン要請に応えることができなくなる。航空機産業における急激な環境変化をとらえ、部品製造企業が成功し生き残っていくためには、人材育成やリスクの共有、経営資源の集中といった戦略を講じ、日本国内で部品生産、組立が出来るようにしていかなければならない。

講　演　航空機開発と人材育成

講　師　**名古屋大学 航空宇宙工学専攻 航空宇宙教育プログラム 特任准教授　林 賢吾　氏**

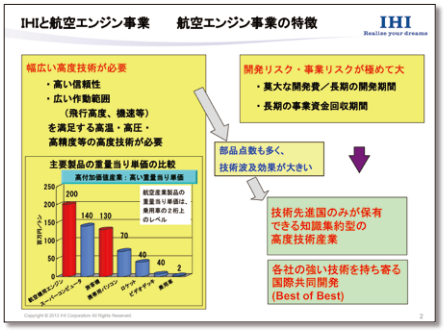
講演概要　部品点数が極めて多い航空機では設計開発にかかる作業量・コストもまた大きくなり、その上で高度な安全性・信頼性が求められる。航空機の開発において、事故が起こっても生存者をより多く残すための安全策はFAA、EASA、JCAB等航空局のみならず開発・製造に携わる多くの航空機製造に関連する企業が最優先に考えなければならない課題であり、新たな機体の導入にかかる型式認証等の安全策は十分な時間をかけて行われるべきである。航空機開発において必要とされるのは膨大なサプライチェーンの関連の中でスケジュール、コスト等を管理するプロジェクトマネジメントであり、今後一層国際協働が進む中、グローバルな環境で活躍できるリーダーが求められる。名古屋大学でも航空宇宙工学専攻、航空機開発グローバルプロジェクトリーダー教育の展開等、将来の航空宇宙分野のあるべき姿を見据え、企業人・学生を対象としたプログラムを実施している。

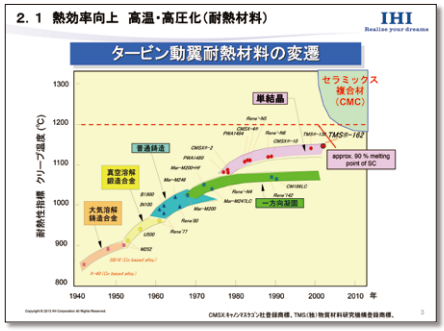
講　演　航空宇宙産業におけるクラスター化の必要性

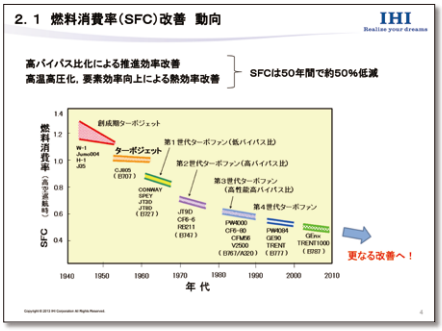
講　師　**三菱重工業（株）交通・輸送ドメイン 航宇生産統括室副室長　岡部 和久　氏**

講演概要　今後航空機産業において伸びが期待されるのは民間機分野中心であり、国内にまだ完成機メーカーがいない中、弊社では767や777の胴体、787の複合材主翼等の開発・製造を行ってきたが、更に機体メーカーとしてワンランク上を目指しているところである。航空機産業においては30年～50年といった長期に渡る生産期間や、民間機の一般的な生産レート月産5～7機といった一つのモデルの生産数の少なさなどに他産業との違いがある。のこぎり発注と言われる各要素ごとの発注形態に代わり、プランニング・治具の製作・加工等を一括して任せる多工程一括発注を推進してきた結果、生産管理業務やトレーサビリティ確保のために間接負荷が高い等課題はあるが、その道筋が見えてきたところである。厳格な品質や、多種多様な部品をコスト・品質ともに効率的・安定的に供給することが求められるとともにグローバルな環境下での競争となる航空機産業において、多工程一括発注の生産体制を整え、更に自動車産業等の技術との融合の可能性を模索し、確立した技術を波及させることで、パートナー企業とともに世界の中での競争力を強化していく。

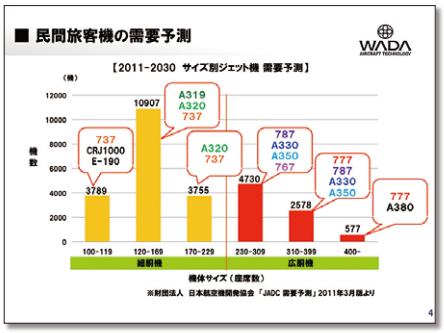
航空エンジンにおける材料および技術開発の動向

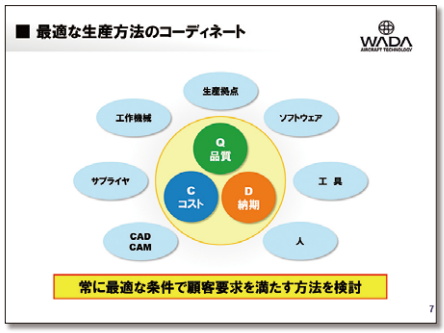


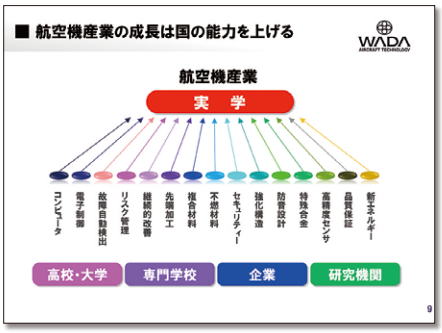




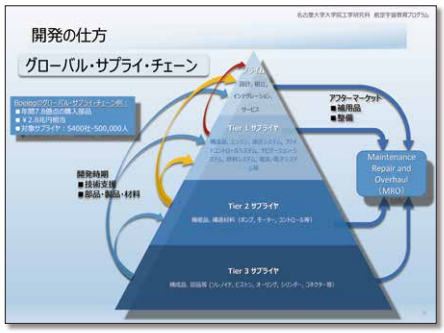
航空機部品製造の将来



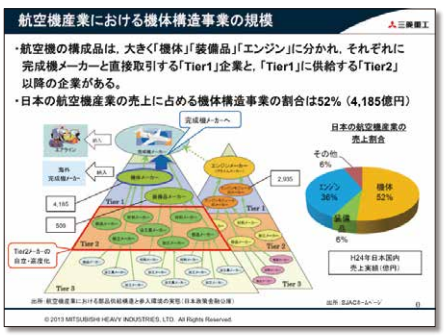


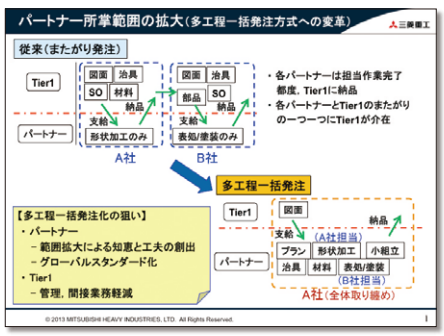


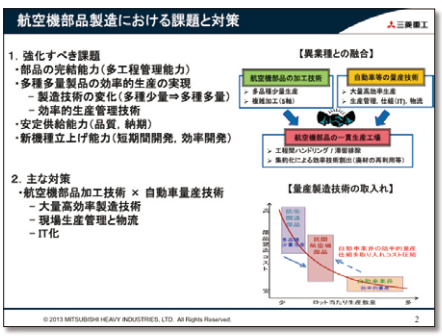
航空機開発と人材育成



航空宇宙産業におけるクラスター化の必要性

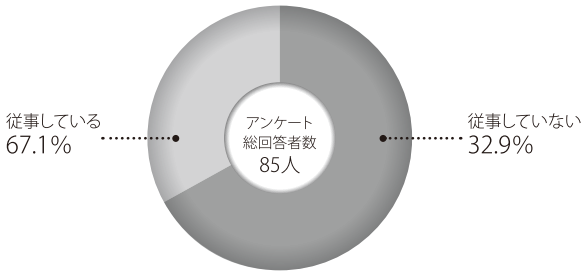




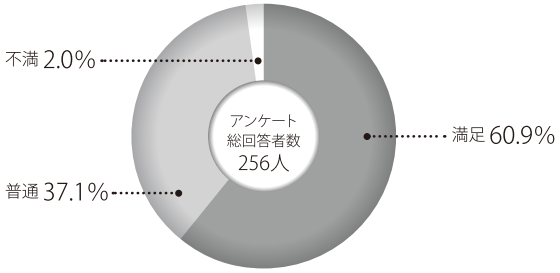


講演会アンケート Questionnaire result report

Q1 航空宇宙産業に従事していますか



Q2 講演内容についての満足度・感想



①航空エンジンにおける材料及び技術開発の動向

- 航空エンジンのニーズに対応する技術説明が、判りやすかった。
- 動向、方向性がよく理解できた。
- 航空機産業における材料のニーズ、トレンドがよく理解できた。
- 航空エンジンの概要から導入した講演内容で大変わかりやすかった。特にタービン動翼の耐熱材料として一方向性凝固材料→セラミックス基複合材へと変化していることは勉強になった。
- 航空機エンジンのトレンド及び開発方針がよくわかった。
- エンジン機構と材料、特性等の関係が判りやすかった。
- 金属性能の限界から、新素材への変換の話が参考になった。
- 航空機エンジンの最新技術の動向を知ることができ参考になった。
- エンジン機材に、CFRP、セラミック基複合材料も使う方向とは驚いた。
- エンジンの進化について分かり易い内容だったが、更に材料革新に合わせたモノづくりとの関係についても聞きたかった。

②航空機部品製造の将来

- 当社において航空機産業参入を検討しており、「部品製造の将来」の説明は参考になった。
- 人を育成することは、大変難しい。和田社長の熱意を感じた。
- 日本の航空機製造の最前線を知ることができた。
- 豊富な情報量で参考になった。(特に構造・部品の種類)
- 航空機部品製造の、現状と今後の課題がよく理解できた。
- 航空機の構造から企業として目指すべき指針も提案され内容のつまった講演だった。
- 中小企業の経営トップとしての心構えなど大変参考になった。
- アルミ系部品(2000系・7000系)中心の講演であり、機体構造部品への適用の現状と展望を聞けてよかった。
- 航空機産業における経営哲学を伺い知ることができた。
- よく整理されていて、分かりやすかった。
- 航空機製造だけでなく、経営者のマネジメントを具体的に、短時間でもきっちりと説明されていてよかった。
- もう少しspecificな生産の話もきければよかった。

③航空機開発と人材育成

- 航空機の産業規模などまとまった資料で、判りやすかった。
- 航空機メーカーの動向など非常に興味深い話が聞けた。
- 設計としていろいろな機種を担当されてきた、その技術の上に、MRJの開発が始まったと感じた。
- 航空機産業を取り巻く環境がよく理解できた。
- 色々な数字をあげての解説が面白く、雑学としても、参考になった。
- 講師の経験がすばらしく、意見、助言がとても重く感じた。
- 長年、民間企業で航空機開発に携わってこられた講師の航空機開発のキャリアを十分感じさせられる講演であった。
- 海外とやりとりできる人材の必要な能力が理解できた。
- グローバル化に対応できる人材育成は不可欠だと感じた。
- 作ったあとのメンテナンスやパイロット育成、そこまでも投資が要ることを認識した。
- 開発の進め方を知ることができた。FAA certificateについてもう少し聞きたかった。

④航空宇宙産業におけるクラスター化の必要性

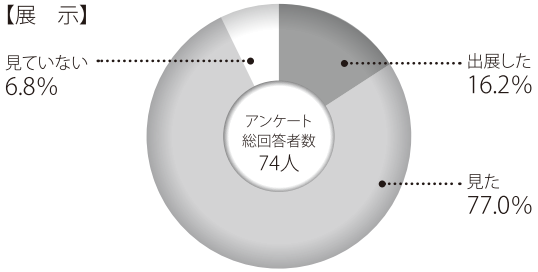
- 三菱重工におけるMRJを含めた生産工程の説明が判りやすかった。
- 航空機製造業の実態と、今後の関係会社との取組みビジョンを学べた。
- 航空機事業の課題がよく理解できた。
- この中部地区が特区の中心になるべく、三菱重工殿の事業展開が分かり、よかった。
- 航空機技術の向上への具体的な提言を聞けて、参考になった。
- 自動車産業との協力化はよいと思う。
- これからの民間航空機部品構造の課題がよく分かった。
- 「クラスター化」のコンセプトと必要性がよく理解できた。
- クラスター化の構想について、もう少し聞きたかった。

Q3 今後取り上げてほしいテーマ、分野

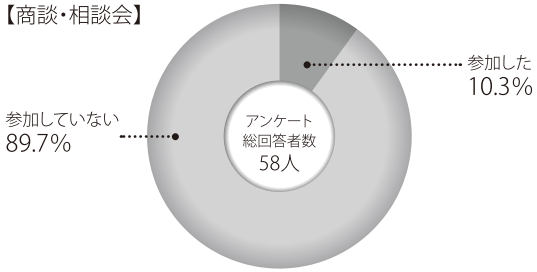
- 材料全般（機体・部品・機械）
- 航空宇宙産業と中小企業
- 航空機のソフトウエア制御技術
- CFRP（炭素繊維強化プラスチック）の航空宇宙産業への応用
- サプライチェーンの構成図及び既存サプライチェーンの現状
- 海外のPrime/Tier1Supplierとのビジネスの展開について
- 将来の航空機に使用される材料とその製法
- MRJとサプライヤーの物流管理（多工程一括発注）
- 調達から製造におけるプロセス
- 航空宇宙部品の組立技術
- 日本での産業構造と海外の産業構造から見た目指すべき産業モデル
- 海外メーカーとの交渉について

Q4 展示、商談・相談会への参加について

【展　示】



【商談・相談会】



Q5 航空宇宙シンポジウム全体への感想・意見等

- 航空機産業のメッカであることを訴え続けるために来年以降もより活況な会の開催を期待する。
- 名古屋中心地での開催を希望する。
- 中部のものづくりの将来の中核的存材になる航空宇宙分野のシンポジウムは大変有効な講演会で、今後のこの分野の進展に期待できる内容であった。
- 短時間ではありましたが、航空宇宙産業の現状や問題点を知ることができいい勉強になった。
- 講演者のバランスはよかった。行政の施策紹介もあれば尚よい。
- 講演内容はよかったが、会場（セミナー1）の広さに対してスクリーンが小さく、資料が読みとりづらかった。音もスピーカー数が足らず、聴きとるのが大変だったため、別会場でのセミナーを希望する。
- 講演会でのスクリーンと音声が大きければ更によいと感じた。（聞きづらかった、隣のエリアとの声が干渉するため）
- 講師がプレゼンに使用したシートを、縮小版でもよいから配布してほしかった。

商談・相談会 Business talk

平成25年10月9日（水）～10月11日（金）　ポートメッセなごや第3展示館

■発注企業・専門相談企業　　9社

（株）IHI、旭金属工業（株）、川崎重工業（株）、住友商事（株）、多摩川精機（株）、東レ（株）、富士重工業（株）、三菱重工業（株）、（株）和田製作所

■受注企業　　27社

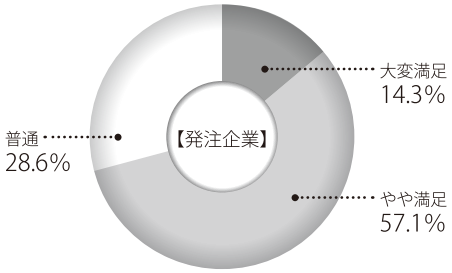
■面談件数　　55件

■商談・相談会アンケート集計結果

Q1　商談・相談会に参加されて、感想はいかがでしたか？

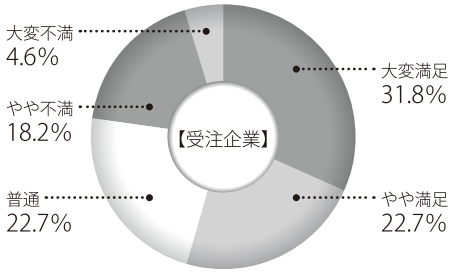
【発注企業】（①大変満足 ②やや満足 ③普通 ④やや不満 ⑤大変不満）

- 即戦力となりそうな企業は少ないが、この業界への注目と熱意を持った企業が国内にまだ何社かはあることが、改めて認識できた。（②）
- 大半の時間が会社紹介に費やされるため、会社紹介の時間が短縮できればよいと感じた。（③）
- 面談した企業とは、内容的によい話ができた。（①）



【受注企業】（①大変満足 ②やや満足 ③普通 ④やや不満 ⑤大変不満）

- 大変有意義な商談をすることができた。（①）
- 予定外の面談までできた。（①）
- ヒントとなる言葉をいただけたことが大変ありがたかった。具体的な商談に発展できないのが残念だった。（③）
- 対応時間が少し短すぎる。お互いの情報が共有不足。（④）
- 見積用図面を受け取ることができた。（②）



Q2　面談企業の印象ははいかがでしたか？

【発注企業】（①大変満足 ②やや満足 ③普通 ④やや不満 ⑤大変不満）

- 熱意を感じられる企業があった。ただし、初期投資が少なからず必要な業種なので、それに対する覚悟の度合いには各社若干の温度差があった。（③）
- 異業種の会社の話は参考になるが、直接自社との関連は少ない。（③）
- すぐ商売につながりそうな企業はなかった。（③）
- 技術的に高い企業が多く、逆にこちらが参考になる話を聞くことができた。（①）

Q2　航空宇宙関連企業との取引がありますか？

【受注企業】

- ある　　14件
- ない　　8件

Q3　面談企業との取引開始につながる手応えが感じられましたか？

【発注企業】（①感じた ②感じない ③わからない）

- 最低限の条件はなんとか備えていると思われる企業もあったので、社内調整後、能力調査に進められるかどうか判断したいと思う。（③）
- 昨年より、具体的な仕事の商談が出来たと思う。（①）
- すぐ商売につながりそうな企業はなかった。（②）
- すぐにとはいかなくとも、今後、何らかのタイミングで取引につながる可能性はあると思う。（①）

【受注企業】

- 感じた　　7件
- 感じない　　7件
- わからない　8件

Q4　面談企業へのご要望をお聞かせください

【発注企業】

- 複数台の5軸加工機、CATIA、V5、CMM、ISO9100などは最低限保持しておいてほしい。まずは2次受注からでも食い込んで、価格・納期・品質要求など把握しておいてほしい。航空宇宙業界の参入障壁は高いので、それに負けない強い意志をもって臨んで欲しい。
- 事前に会社概要がもう少し分かっている方が話がしやすい。
- 航空機部品を製作するうえでの必須条件（JISQ9100、CATIA）はクリアにしておいていただきたい。

Q4　今後、航空宇宙分野に参入するための参考になりましたか？

【受注企業】（参考になった…11件　参考にならない…3件　分からない…6件）

- 何が足りなく、何が求められているか、少し理解できた。
- より理解を深めることができた。
- Nad-capなど取得が難しい。
- 航空宇宙分野に参入するためのステップの再確認ができた。
- 設備投資の内容、課題、必要素など教えていただいた。
- 自社に今足りないところ等再確認できた。

Q5　その他、商談・相談会の運営などでお気づきの点がありましたらお聞かせください

【発注企業】

- 少々暗かった。補助照明等があると良かったと思う。
- 商談ブースが少し暗いと思う。
- 会場は、パーテーションの仕切りのみであったので、出来れば囲われた個室的な方がよいと思う。
- 面談企業は、非常に積極的、意欲的で企画継続は意義があると思う。

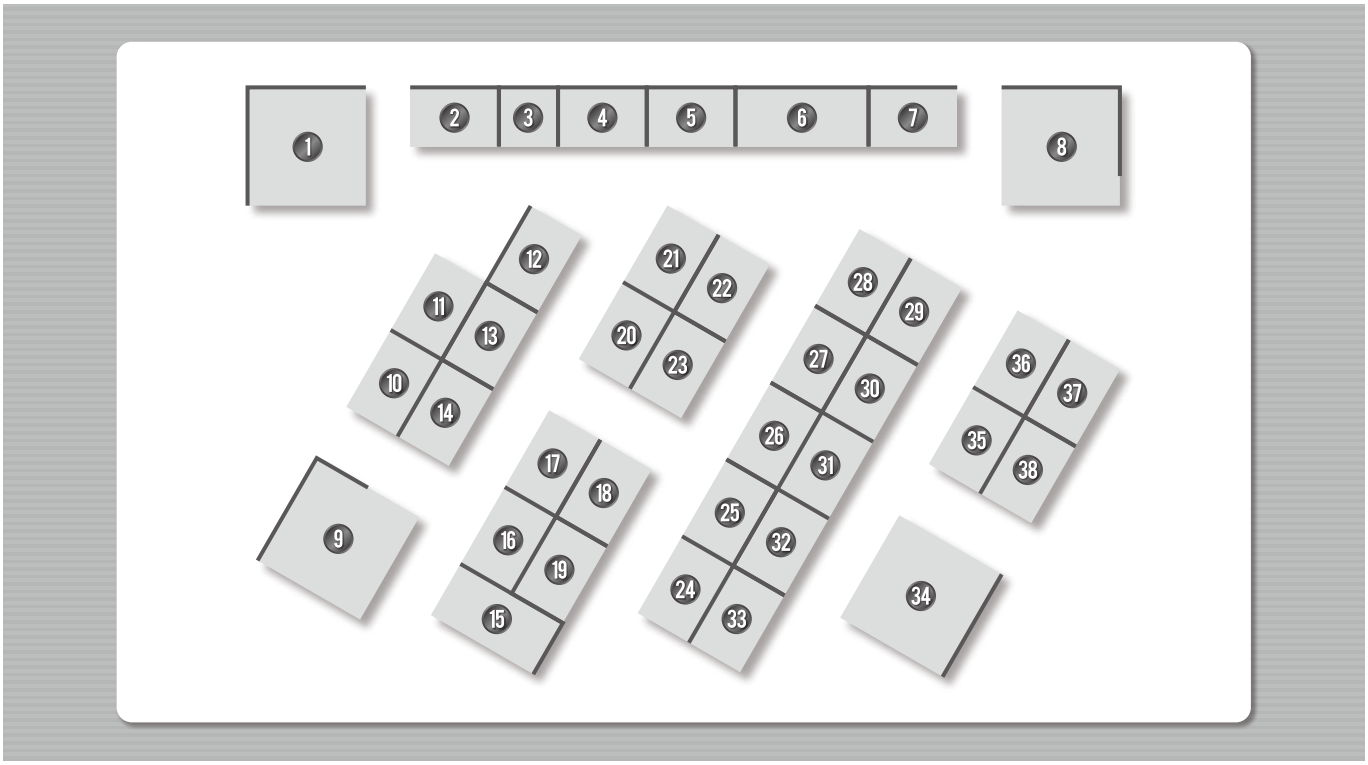
【受注企業】

- もう少し商談の時間がほしい。
- 大変有意義な商談会だった。又、お願いしたい。
- 商談先企業の求める内容をもう少し具体的に応募段階で明示してマッチングしていただきたい。
- B to Bビジネスマッチングにおいて、選択する側も選択される側も事前にもう少し、多くの情報を共有できるとよかった。

展示会 Exhibitior

平成25年10月9日（水）～10月11日（金）　ポートメッセなごや第3展示館　出展企業・団体数40社・団体

【会場小間配置図】



企業・支援機関	ブースNo.
（株）IHI	1
（株）シーアールイー	2
（株）アルプス技研	3
中日本航空（株）	4
セントラルヘリコプターサービス（株）	5
愛知県企業庁	6
中部国際空港（株）	6
（一社）日本航空宇宙工業会	7
川崎重工業（株）	8
三菱重工業（株）	9
多摩川精機（株）	10
（株）前田シェルサービス	11
カーボンファイバーリサイクル工業（株） 豊田通商（株）／東海電気（株）	12

企業・支援機関	ブースNo.
（株）ハヤカワカンパニー	13
東レ（株）	14
航空宇宙シンポジウム実行委員会	15
宇宙航空研究開発機構 航空本部	16
（株）アレックス・ジャパン	17
（株）エアロ	18
東洋航空電子（株）	19
名古屋市立工業高等学校	20
中日本航空専門学校	21
国立大学法人名古屋工業大学 3DCAD設計技術者育成講座	22
国立大学法人名古屋大学 航空宇宙工学専攻	23
（株）和田製作所	24
曙工業（株）	25

企業・支援機関	ブースNo.
（株）三光刃物製作所	26
オーエムヒーター（株）	27
アイコクアルファ（株）	28
メイラ（株）	29
（株）TEKNIA	30
（有）加藤精密工業	31
渡辺精密工業（株）	32
旭金属工業（株）	33
富士重工業（株）	34
（株）パイオニア風力機	35
郵船ロジスティクス（株）	36
ペリカンプロダクツ（株）	37
日本通運（株）	38

展示アンケート Questionnaire result report

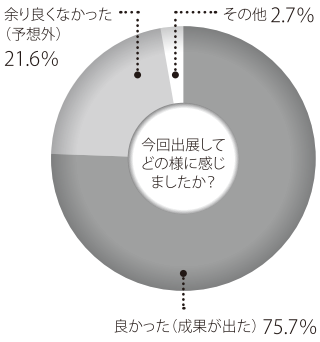
Q1 今回出展してどの様に感じましたか？

◎良かった（成果が出た）

- 3日とも来客が絶えることなく技術PRを十分に行えた。
- 当地域の航空宇宙事業に関する加工業社として知名度を広げることに繋がった。
- 様々な加工（機械）を受けてくれそうな業者様と面談が出来た。
- 同業社から具体的な引き合いがあり、情報交換もできた。
- 希望する技術を持った企業と巡り会えた。
- TECH Biz EXPO 2013の来場者の中で客先となり得る企業が何社かあった。
- 加工の外注をお願いできそうな企業と名刺交換ができた。

◎余り良くなかった（予想外）

- 全般的にパネル出展が多く、出展企業の積極性があまり感じられなかった。
- 想像以上にブースが狭く、ブース前の距離も短いため、人を引き止めることができなかった。
- 3日間とも盛況な人の出入りがあり、航空宇宙分野への関心の高さを感じたが、求める技術を持つ企業が見当たらなかった。
- ターゲットとしていた企業の来展が、想定より少なかった。



Q2 他の出展企業ブースへ何社、訪問されましたか？

837社 以上

Q3 自社ブースに何社、来られましたか？

2,499社 以上

Q4 今後にむすびつきそうな企業は何社ありますか？

107社 以上

Q5 同時開催イベント（TECH Biz EXPO 2013）にも参加されましたか？

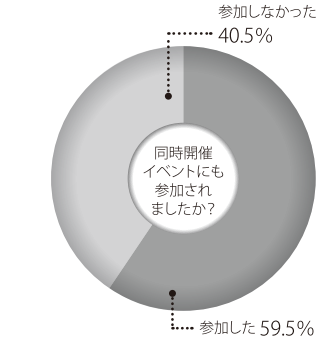
TECH Biz EXPO 2013へのシンポジウム出展者の参加数
（各イベントごとに集計）

◎展示（企業、団体展示、主催企画等）
12者

◎講演会・セミナー
12者

◎学術研究技術シーズ/個別技術相談
1者

◎出展者テクニカルワークショップ
2者



Q6 今後の国内外で開催される航空宇宙分野の展示会に出展する予定／希望をお教えください。

◎出展予定の展示会

- ファンボローエアショー
- ILAベルリン国際航空宇宙展
- 国際航空宇宙展JA2016
- その他国内外の展示会

◎出展に関する希望

- 出展に関する（費用面の）支援
- 出展前の事前PRや、展示会場における来場者、他出展者向けのアピールの機会の設定

Q7 今回の航空宇宙シンポジウムに参加して、主催者側に対して要望（意見）事項はありますか？ 今後に繋げるためにどの様な点を改善・改良したらよいでしょうか？

- 愛知県・名古屋市の名前を前面に出して、他地域・他分野の展示会に出展するべき。企業誘致の観点からも有益。
- 航空宇宙の周辺企業（防災など）にも目を向けたマッチングイベントなどを企画するとよい。
- 今回の会場内の配置（斜め配列）はあまりよくないと感じた。方形配置の方が見学者も見やすいと思う。
- 航空業界のコンサルティング的機能を持つ総合案内窓口の設置。
- 他イベントと共催した今回のシンポジウムは、異業種との交流促進の点で優れている。

Q8 今後の支援施策として希望する事はありますか？

- 技術開発時の費用が大きなハードルとなっているため、同支援をお願いしたい。
- 今後ともマッチング支援、出展支援などをお願いしたい。
- 展示会出展など、自社PRの機会の場の設定に限らず、様々な業界関連情報を提供してほしい。
- 日常的な情報交換の場づくりをお願いしたい。

写 真 Photography

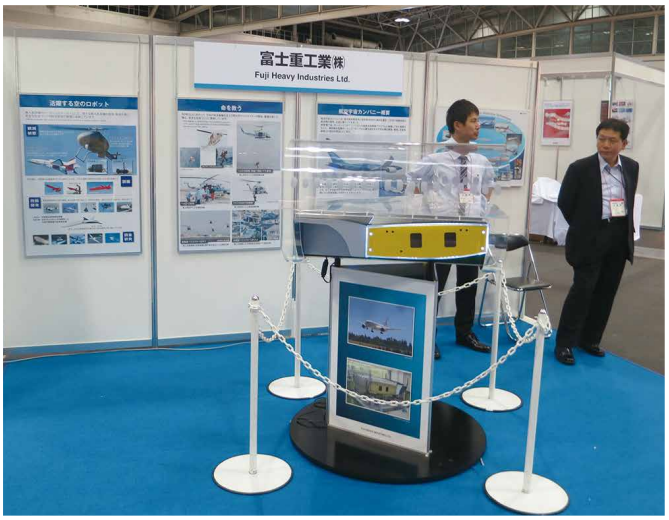
会 場 風 景（TECH Biz EXPO 2013オープニングセレモニー、会場全体）

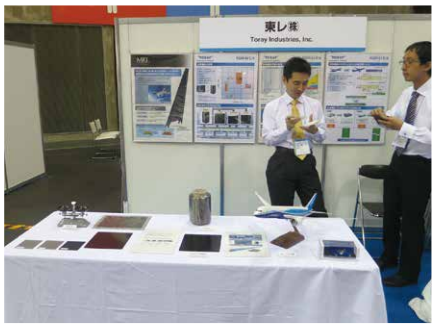
写 真 Photography

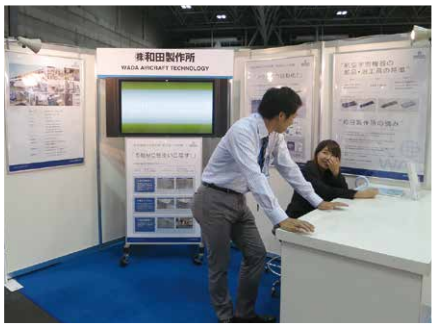
講 演 会 場 風 景

商 談 ・ 相 談 会 場 風 景

出展者ブース風景（抜粋） Exhibitor booth (selection)







航空宇宙シンポジウム実行委員会 規約 Agreement

名　　称

第1条　本会は、航空宇宙シンポジウム実行委員会（以下「委員会」という。）と称する。

目　　的

第2条　委員会は、「航空宇宙シンポジウム」の企画及び運営について審議し、円滑な事業の推進を図ることを目的とする。

構　　成

第3条　委員会は、愛知県、名古屋市、一般社団法人中部航空宇宙産業技術センター、公益財団法人あいち産業振興機構、公益財団法人名古屋産業振興公社をもって構成する。

役　　員

第4条　委員会に、次の役員をおく。

(1)委 員 長　　1名
(2)副委員長　　2名
(3)委　　員　　若干名
(4)監　　事　　2名

役員の選任

第5条　委員会の役員は、各構成団体の職員のうち別添に掲げる職にあるものをもってこれにあてる。

役員の職務

第6条　(1)委員長は、委員会を代表し、会務を統括する。
(2)副委員長は、委員長に事故があるとき、又は欠けたときにその職務を代理する。
(3)委員は、会務を審議し、運営する。
(4)監事は、委員会の会計を監査する。

委員会の開催

第7条　委員会は、委員長が必要に応じて招集し、委員長が議長となる。

事務局

第8条　委員会の事務局は、一般社団法人中部航空宇宙産業技術センターに置く。

会　　計

第9条　委員会の経費は、愛知県、名古屋市、一般社団法人中部航空宇宙産業技術センター、公益財団法人あいち産業振興機構、公益財団法人名古屋産業振興公社の負担金などの収入をもってあてる。

第10条　委員会は、その目的達成後に解散し、残余金は精算する。

第11条　この規約に定めるもののほか、必要な事項は、委員長がこれを定める。

附　　則

この規約は、平成25年5月22日から施行する。

航空宇宙シンポジウム実行委員会 名簿 List of names

委員長

一般社団法人中部航空宇宙産業技術センター 専務理事　**松岡 隆**

副委員長

愛知県産業労働部技監　**加藤 丈雄**

名古屋市市民経済局産業部長　**一柳 良直**

委員

愛知県産業労働部産業振興課次世代産業室長　**大野 康史**

名古屋市市民経済局産業部次世代産業振興課長　**西野 輝一**

公益財団法人あいち産業振興機構経営支援部長　**佐々木 靖志**

公益財団法人名古屋産業振興公社産業育成部長　**安田 良**

監事

愛知県産業労働部産業振興課次世代産業室室長補佐　**大嵜 みどり**

名古屋市市民経済局産業部主幹　**大岡 千洋**

事務局

〒460-0008　名古屋市中区栄二丁目9-26 ポーラ名古屋ビル10F
C-ASTEC　(一社)中部航空宇宙産業技術センター内
TEL：052-221-6681　FAX：052-218-8528

航空宇宙シンポジウム2013 開催結果報告書

発行年月／平成26年1月

編集発行／航空宇宙シンポジウム実行委員会
構成団体：愛知県、名古屋市、（一社）中部航空宇宙産業技術センター
（公財）あいち産業振興機構、（公財）名古屋産業振興公社

事 務 局：〒460-0008 名古屋市中区栄2-9-26 ポーラ名古屋ビル10F
C-ASTEC （一社）中部航空宇宙産業技術センター内
http://c-astec.jp tel.052-221-6681 fax.052-218-8528